

平成28年12月

各 位

八戸市東京事務所長

## 八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成28年12月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださるようお願いいたします。

先日1日、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の政府間委員会がエチオピアで開催され、「八戸三社大祭の山車行事」など18府県33件の祭りで構成する「山・鉾・屋台行事」を無形文化遺産に登録することが決定されました。能楽や歌舞伎、和食、和紙などに続く登録で、日本の無形文化遺産は、21件となります。今回、県内初の登録となります。

今回の登録では、伝統的な工芸技術の継承と世代を超えた交流とコミュニケーション形成などが評価されました。この登録を機に、より一層、八戸三社大祭の継承、国内外への発信をしていきたいと思っております。

また、4日は、六日町の複合ビル「ガーデンテラス」1階に、「八戸ブックセンター」が開設されました。市の進める「本のまち八戸」構想の拠点として、新たな公共サービスの提供を目指してまいります。

### ◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせください。よろしくお願いいたします。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973/FAX (03) 3239-6723

E-mail: [tokyo@city.hachinohe.aomori.jp](mailto:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp)

# 八戸12月号 レポート

平成28年11月の八戸市内での出来事や  
八戸市に関連する情報をお届けします。

## 【行政】

| 記事 | 概要                                    |
|----|---------------------------------------|
| 1  | 八戸三社大祭 ユネスコ無形文化遺産登録へ                  |
| 2  | 八戸自動車道 新スタートIC名称 「八戸西スタートインターチェンジ」に決定 |
| 3  | 全国産業観光まちづくり大賞 八戸市が特別賞受賞               |
| 4  | 八戸市とゼンリン 災害時の協力協定を結ぶ                  |
| 5  | 青森県方針 二ホンヅカ全頭捕獲へ                      |
| 6  | 「八戸コイン産業創出特区」 国が認定                    |

## 【産業】

| 記事 | 概要                       |
|----|--------------------------|
| 7  | 南部バス（八戸） 負債額26億円で民事再生法申請 |

## 【地域】

| 記事 | 概要                                    |
|----|---------------------------------------|
| 8  | 蕪嶋神社再建に向け地鎮祭                          |
| 9  | 「飲酒運転根絶条例」制定へ向け 関係団体が市長に嘆願書提出         |
| 10 | 八戸前沖さばアイデア料理コンテスト 調理師の小笠原さんが金賞！       |
| 11 | 八戸市の「みちのく庭園」 東京のガーデンズ賞で優秀賞受賞！         |
| 12 | 「八戸Tシャツ」デザインに八工大二高生の作品採用              |
| 13 | 蕪嶋神社全焼から1年 応援の声各地から                   |
| 14 | ～蔵に芳醇な香り～ 新酒仕込み本格化                    |
| 15 | “だし活”カフェ開店 だしの魅力やおいしさを発信              |
| 16 | 八戸初「子ども食堂」開設 ～広がれ 貧困支援の輪～             |
| 17 | 「県学校給食献立コンクール」八戸盲学校が最優秀賞！             |
| 18 | 滑らかな銀盤目指し 長根リソクで製氷作業始まる               |
| 19 | 「はちのへイサバ鮎」新提供 イカとサバに特化した試み            |
| 20 | B-1グランプリスペシャルに向け壮行式 ～「八戸を日本一に！」力強く宣言～ |
| 21 | 八戸市中心街2016年度通行量 過去2番目の少なさ             |

## 【文化・スポーツ】

| 記事 | 概要                                   |
|----|--------------------------------------|
| 22 | 日本管楽合奏コンテスト小学校部門 新井田小の吹奏楽部が優秀賞！      |
| 23 | バレーボール「V・ガミリアーグ女子八戸大会」8年ぶりに八戸で開催     |
| 24 | 八戸舞台の「ライアの祈り」 海外2映画祭で受賞              |
| 25 | 「ダンス全日本選手権シニアⅢラテン」 吉田さん、田中さん組が見事準優勝！ |



## 八戸三社大祭 ユネスコ無形文化遺産登録へ

- (1) 国際教育科学文化機関（ユネスコ）の補助機関は、八戸市の「八戸三社大祭の山車行事」など18府県33件の祭りで構成する「山・鉾・屋台行事」を無形文化遺産に登録するよう勧告した。ユネスコが11月28日からエチオピアで開く政府間委員会で審査するが、勧告は尊重されるのが通例で、年内の登録はほぼ確実とみられる。登録されると、青森県内では初めてとなる。

## 八戸自動車道 新スマートIC名称 「八戸西スマートインターチェンジ」に決定

- (2) 八戸市は11月14日、東北自動車道八戸線（八戸自動車道）の八戸ジャンクション（JCT）－八戸北インターチェンジ（IC）間の尻内町新川添に整備しているスマートICの名称が「八戸西スマートインターチェンジ」に決定したと発表した。同スマートICは、県内初の自動料金収受システム（ETC）対応車両限定の簡易型ICとして市とNEXCO東日本が整備している。2019年3月に利用開始予定。

## 全国産業観光まちづくり大賞 八戸市が特別賞受賞

- (3) 八戸市の産業観光の取り組みが「第10回産業観光まちづくり大賞」の特別賞を受賞した。市は13年度に工場をテーマにした通年の市民活動として「八戸工場大学」を開始。大学になぞらえた「講義」や、工場見学や撮影会といった課外活動を展開している。工場群を地域の文化資源と捉え、市民や工場関係者の機運醸成を図っている事業などが評価された。

## 八戸市とゼンリン 災害時の協力協定を結ぶ

- (4) 八戸市は11月18日、地図会社のゼンリンと「災害時における地図製品等の供給等に関する協定」を結んだ。大規模災害時、自治体は現場把握や現地確認などのため最新データの地図を大量に必要とするが、現実的には即座に準備することが難しかった。すぐに地図を利用できるようあらかじめ地図の無償提供を受け、コピーすることの許諾も受けた。同社によると、締結は全国281番目で、青森県内の自治体では初めてとなる。

## 青森県方針 ニホンジカ全頭捕獲へ

- (5) 青森県内で目撃が相次いでいるニホンジカ対策で、県は11月18日、策定を進めている特定鳥獣管理計画に「全頭捕獲」を盛り込む方針を決めた。ニホンジカの管理計画は40都道府県で策定しているが、全頭捕獲を目指すケースは珍しく、東北では初めて。ニホンジカの増加は県の基幹産業である農林業に打撃を与え、生態系を壊す恐れもある。県は管理計画の素案を検討し、来年9月までに計画を策定する。全頭捕獲を始めるのは、来年秋以降となる見込み。

## 「八戸ワイン産業創出特区」国が認定

- (6) 八戸市が国に申請していた「八戸ワイン産業創出特区」が11月29日、認定された。酒税法で定められている生産量基準を下回る規模でもワインの醸造が可能となった。これにより、地元のプロウを使ったワインを地元で造り、農業、商業、観光などの振興を目指す八戸市の「ワイン産業創出プロジェクト」が実現に向けて前進した。市は年内にも事業者を選定・公表する予定。ワインの本格的生産は、順調に進めば仕込みが2017年秋、販売開始は2018年春ごろになると見込んでい



【産業】

| 記事  | 概要   |
|-----|--|
| (7) | <p><b>南部バス（八戸） 負債額26億円で民事再生法申請</b></p> <p>青森県南、岩手県北地方を中心にバス事業を展開する南部バスが11月28日、東京地裁に民事再生法の適用を申請した。同日付で受理され、保全命令を受けた。負債額は26億8440万円。再建に向け、地方の公共交通事業で再生実績がある「みちのりグループ」（東京）の岩手県北自動車に全事業を譲渡する方向。従業員249人の雇用を継続し、路線や便数も削減せずに“地域の足”を維持することを目指して協議を進めており、年内に合意したい考え。</p> |

【地域】

| 記事   | 概要   |
|------|--|
| (8)  | <p><b>蕪嶋神社再建に向け地鎮祭</b></p> <p>昨年11月の火災で焼失した蕪嶋神社の再建実行委員会は11月1日、蕪嶋頂上部の境内にある神社建設予定地で地鎮祭を行い、再建に着工した。実際の作業は11月4日から開始し、同日から2019年12月までの工事期間中、境内に上る階段への立ち入りはできなくなる。新しい神社は2階建てで、延べ床面積は旧神社の1.5倍の約480平方メートル。1階は参拝客らの休憩場所とし、2階に本殿や拝殿を配置する。</p>   |
| (9)  | <p><b>「飲酒運転根絶条例」制定へ向け 関係団体が市長に嘆願書提出</b></p> <p>八戸市で11月2日、青森県初となる飲酒運転根絶条例の制定実現に向けた取り組みが、本格始動した。交通安全関係団体などで組織する「飲酒運転根絶プロジェクト」は、8万人余りから集まった「飲酒運転しない・させない・許さない」署名や条例制定を求める嘆願書を、小林眞市長に提出。小林市長は「実効性のある対策を考え、市議会で検討していきたい」と応じ、制定実現に前向きな姿勢を示した。市や八戸署、各団体が今後、協議を重ねて条例案の内容などを検討する。</p>                                   |
| (10) | <p><b>八戸前沖さばアイデア料理コンテスト 調理師の小笠原さんが金賞！</b></p> <p>「第10回八戸前沖さばアイデア料理コンテスト」（主催・八戸前沖さばアイデア料理コンテスト）が11月6日、八食センターで行われ、審査の結果、八戸市の調理師小笠原拓哉さん(35)の「甘くなあ〜いりんチートースト・さばカロッツァ」が金賞に輝いた。カロッツァはパンにチーズを挟み、牛乳や卵に浸して揚げるイタリアの郷土料理。サバを挟んで“八戸風”にアレンジした。小笠原さんは「珍しさよりも、なじみややすさを優先に考案した。イタリアでは子どもから老人まで親しまれており、八戸でも食べたい」と話している。</p>     |
| (11) | <p><b>八戸市の「みちのく庭園」 東京のガーディング賞で優秀賞受賞！</b></p> <p>10月22～30日に東京都で行われた「日比谷公園ガーディングショー2016」のガーディングコンテストで、八戸市の「みちのく庭園」がライフスタイルガーディング部門の優秀賞（デザイン賞）に輝いた。街に住む人々の暮らしの中のストーリーを、奥行き2メートル、幅3メートルの空間で表現するライフスタイルガーディング部門には、全国から22点の出品があった。同社は『時空庭』〜時を想う庭』と銘打って、移りゆく時の流れの中で取り残されたもの、そこを離れようとするものを石、木、草、花、建物を使って一つの空間に表した。</p> |



|  |  |
|--|--|
| <p>「八戸Tシャツ」デザインに八工大二高生の作品採用</p> <p>(12) 八戸せんべい汁研究所 (汁“研) が公募していた「八戸Tシャツ」デザインに、八工大二高3年・阿部愛加さんの作品が選ばれた。阿部さんの作品は黒地に白で数字の8を大きくデザインし、8の中にせんべい汁やイカ、サバの図柄を配置するなどしている。汁“研はデザインをアレンジしてTシャツを作成。12月3～4日に東京・お台場で開かれる「B-1グランジアスペシャルin東京・臨海副都心」で、メンバーら同市関係者がユニホームとして着用し、八戸をPRする。</p> <p><b>蕪嶋神社全焼から1年 応援の声各地から</b></p> <p>(13) 八戸市のシンボルとして親しまれてきた鮫町の蕪嶋神社が全焼してから11月5日で1年。早期再建を願い、同神社や再建実行委員会に市内外から寄せられた手紙などメッセージは100件超。野澤宮司や実行委メンバーは、多数の激励の言葉をカに再建への思いを新たにしている。10月17日時点の寄付金は1億5400万円に達しているが、再建費用は5億円が見込まれる。寄付金と火災保険金を合わせた額は2億7400万円で、2億2600万円が不足しているのが現状。実行委はさらなる支援を広く呼び掛ける。</p> <p><b>～蔵に芳醇な香り～ 新酒仕込み本格化</b></p> <p>(14) 11月に入り、青森県内の造り酒屋で新酒の仕込み作業が本格化している。八戸市内の酒蔵でも8日、杜氏 (どうじ) や蔵人 (くらびと) が作業に精を出し、芳醇な香りが漂っている。八戸酒造は9月中旬に今年の酒造りを開始。蔵人が、蒸した青森県産米の「まっしら」[ライメイ]を手際良くタンクの中に投入、長い棒でもろみをかき混ぜ発酵を促す「權 (かゐ) 入れ」を念入りに行っている。もろみは仕込から1カ月ほどで搾られるという。今季は来年5月まで、一升瓶で約20万本分の原酒を仕込む。</p> | <p><b>“だし活”カフェ開店 だしの魅力やおいしさを発信</b></p> <p>(15) 新湊地区の館鼻岸壁近くに、海産物を使っただし商品や食事メニューを提供する「だし&amp;カフェ禅」が11月7日にオープンした。だしソムリエ2級を取得する代表の金山和歌子さんは「地域に密着し、『まちのおだし屋さん』のような店にしたい」と意欲満々だ。主な食事メニューは、漬けサバ、生イカとイカ飯、あぶらヒラメ、いちご煮の炊き込みご飯などを使った全7種類の「だし茶漬セット」(850円～1000円)。本枯節のだしと、かつおせんべいの味を楽しめる「あてなもの」(350円) もお薦めの一品。だしの魅力やおいしさを発信する店づくりを目指す。</p> <p><b>八戸初「子ども食堂」開設 ～広がり 貧困支援の輪～</b></p> <p>(16) 子どもの貧困対策の一つとして、全国で取り組みが広がっている「子ども食堂」。八戸市でも11月15日から来年2月まで、期間限定で開設される。仕掛け人は、八戸学院短期大の佐藤教授と教え子の学生3人で、ゼミ活動の一環として実施する。場所は「はっち」2階にある「きたむら食堂」と柏崎2丁目の「あおば食堂」で、子ども食堂として開放するのは月1回。高校生までは無料、大人は300円となる。子どもに限らず、一人親や高齢者まで、さまざまな人が寄り添える居場所を目指した、市内初の試みがスタートする。</p> <p><b>「県学校給食献立コンクール」八戸盲学校が最優秀賞!</b></p> <p>(17) 児童生徒が教員とチームを組んで青森県産食材を使ったメニューを作る「県学校給食献立コンクール」が11月19日、青森市の県学校給食会で開かれた。7回目を迎えたコンクールには、8校から15チームが応募、書類審査で、7校9チームが最終審査に臨んだ。最優秀賞には、「子どもたちが喜ぶ給食」をテーマにし、八戸産のサバを食材にしたケチャツナ味のライスロッケや、南部せんべいをフレンチトースト風に仕立てたデザートなど5品を調理した八戸盲学校が選ばれた。</p> |
|--|--|



|   |
|---|
| <p>滑らかな銀盤目指し 長根リンクで製氷作業始まる</p> <p>(18)</p> <p>長根公園スケートリンクで11月21日、今季の製氷作業が始まった。この日は気温が4度まで下がった午後7時ごろに作業を開始。公園を管理する職員8人が1周400メートルにリンク4カ所に分かれホースで約60度の湯を霧状に散水すると、勢いよく湯気が立ち上がった。リンク下のパイプを通る氷点下14度の冷却液によって、まかれた湯は冷やされ、1回の作業で約1ミリの厚さができる。この作業を1日約10回、計4日繰り返す、厚さ4センチほどに仕上げるといふ。12月3日の営業開始に向けて丁寧に作業を進め、鏡面のような、滑らかな銀盤に仕上げる。</p> <p><b>「はちのへイサバ鯨」新提供 イカとサバに特化した試み</b></p> <p>(19)</p> <p>八戸市内の日本料理店などで11月から、イカとサバを3貫ずつ組み合わせた「はちのへイサバ鯨」(税別1380円)の提供が始まった。八戸商工会議所や市、観光関係者らで組織する「八戸観光創造委員会」が企画。市内の参加店で提供していた全11貫の「はちのへ鯨」(税別3100円)に加え、新たにイカとサバに特化した試みである。</p>   |
| <p><b>B-1グランプリスペシャルに向け壮行式 ～「八戸を日本一に！」力強く宣言～</b></p> <p>(20)</p> <p>「B-1グランプリスペシャルin東京・臨海副都心」(12月3、4日)に向けて、出展する八戸市と、運営主体の「八戸せんべい汁研究所(汁研)」を応援する壮行式が11月23日、三春屋店頭で開かれた。B-1グランプリスペシャルは、開催目的を「地域の活性化」の原点に立ち返った特別大会。各地域の運営主体への投票ではなく、「行きたいまち・住みたいまち・応援したいまち」のナンバリングを決める。集まった市民から声援を受け、木村聡所長は「八戸を日本一にできるよう頑張ります。ますます力強く“宣言”した。</p> <p><b>八戸市中心街2016年度通行量 過去2番目の少なさ</b></p> <p>(21)</p> <p>八戸商工会議所が、八戸市中心商店街の2016年度通行量調査の結果を公表した。三日町、十三日町の8地点の合計は4万7511人で、1979年度の調査開始以降、2番目に少なかった。総通行量は、2011年2月の「はち」開館を機に一時持ち直したものの、伸び悩みが続いている。六日町にオープンした「ガーデンプラザ」や整備予定の三日町にぎわい拠点「マチニコ」(仮称)などと連携し、全体ににぎわいを波及させる工夫が求められる。</p>           |
| <p>【文化・スポーツ】</p> <p><b>記事</b></p> <p><b>日本管楽合奏コンテスト小学校部門 新井田小の吹奏楽部が優秀賞!</b></p> <p>(22)</p> <p>八戸市立新井田小の吹奏楽部が、11月3日に東京都内で開かれた第22回日本管楽合奏コンテストの小学校部門で優秀賞を受賞した。大会には、録音審査を通過した全国の34校が出場。同校は、4年～6年の部員38人で「第六の幸福をもたらす宿」を披露した。演奏した曲は、中高生向けで難易度が高いという。顧問の教諭は「学校創立140周年の節目に全国の舞台上に立った。地域の支えに感謝したい」としみじみと語った。</p> <p><b>バレーボールV・プレミアリーグ女子八戸大会」8年ぶりに八戸で開催</b></p> <p>(23)</p> <p>バレーボールの「V・プレミアリーグ女子八戸大会」の第1日が11月26日、八戸市体育館で開催された。今季限りの引退を表明している木村沙織(東シ)ら国内のトップ選手が熱戦を繰り広げた。初日は2試合を行い、東シが次光製菓を、トヨタ車体がPFUをそれぞれ下した。市バレーボール協会によると、同市でのVリーグ開催は8年ぶり。会場には待ちわびた市民ら2330人が詰め掛け、力強いハイキックや身をこめたレシーブなどの好プレーが飛び出すたびに、会場は大いに盛り上がった。</p> |
| <p><b>概要</b></p>  |

**八戸舞台の「ライアの折り」 海外2映画祭で受賞**

八戸市を舞台にした映画「ライアの折り」(鈴木杏樹さんと宇梶剛士さんらが出演、2015年全国公開)が、海外の二つの映画祭で賞を獲得した。短編映画中心の「第4回アジアスクロ映画芸術祭」(6～8日、中国)で「国際賞」に、東欧最大の映画祭「第23回ミンスク国際映画祭」(4～11日、ベラルーシ)で「大統領特別賞」に選ばれた。受賞式に出席した製作総指揮の川阪実由貴さんは「きれいな情景や、登場人物の心情表現などが評価された。八戸の風景を世界に紹介できる機会となった」と強調した。

**「ダンス全日本選手権」ニアシアラテン」 吉田さん、田中さん組が見事準優勝！**

11月13日に岩手県花巻市で行われた「全日本選手権ニアシアラテン」(日本ダンススポーツ連盟主催)で、八戸市の会社員吉田武将さん(49)と青森県職員田中悦子さん(59)のペアが準優勝に輝いた。初出場での快挙に2人は「高齢でも努力次第になりたい自分になっていけると実感した」と喜びをかみしめている。海外で来年行われる世界選手権の日本代表選考会も兼ねている今大会。23ペア中6ペアが世界への切符を手に入れる。

(25)